

事業番号	09 03 06	事業改善シート(令和2年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	農業関係試験研究推進事業	部局	農政部	課・室	農業技術課		
		実施期間	S53 ~	E-mail	nogi@pref.nagano.lg.jp		
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)							
8つの重点目標	付加価値を高め、経済成長を実現						
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進			3-7 先端技術の積極的な活用・導入			



## 1 事業の概要

事業の現状・目指す姿(予算編成時)	【現 状】 ○県内農業の持続的な発展のため、市場評価の高い長野県オリジナル品種の開発、低コスト・省力化を図るためICTや作業ロボットなどを活用したスマート農業の実現が必要となっている。また、減農薬など環境にやさしい農業技術や地球温暖化対策技術等、担い手不足や農家の高齢化等、生産現場の問題解決や要望に対応できる中長期的展望に立った技術の開発が求められている。
	【目指す姿】 ○国内外の市場において、マーケットインの販売や輸出戦略に対応できる新品種の新品種の育成、スマート農業生産技術など、生産性・品質向上技術等の新技術が開発されている。 ○地球温暖化等の中長期的な視点に立った課題に対応した新技術の開発が進められている。 ○基礎的な研究により、今後の開発される技術が生産現場に普及し生産性向上が図られている。 成果目標：長野県農業関係試験研究推進計画の技術開発目標220技術達成(令和4年)
	【実施内容】 ○試験場施設整備、素材開発研究、県単プロジェクト研究など

指標の状況及び目標値 [↑:改善、↓:悪化、→:変化なし]								区分(単位:千円)	R1年度	R2年度	
No	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	目標値	達成状況	事業コスト				
1	R4年までに技術開発を予定している課題の達成率	4% (H30-R4)	16% (H30-R4)	↑	30% (H30-R4)	↑	39%	未達成	前年度繰越		563,579
									現計予算	1,023,674	352,774
									合計(A)	1,023,674	916,353
2	品種育成数	1品種	2品種	↑	4品種	↑	1品種	達成	うち一般財源	161,173	126,041
									決算額(B)	456,739	896,116
3	要望に基づいた研究着手数	10課題	12課題	↑	14課題	↑	10課題	達成	職員数(人)	169	165
									4		

**成果指標設定理由** ①～③「第3期県食と農業農村振興計画」に基づき策定する農業関係試験研究推進計画(平成30年より令和4年までの5か年)に掲げる220課題のうち、技術開発の進捗率を評価できる指標であるため。

**達成状況の分析** ①推進計画(H30年度～R4年度)の3年目となり、品種や技術の開発でより高い地球温暖化への適応が求められるようになったため、5年間の220目標のうち65(29.5%)に留まり目標達成できなかった。  
②農業関係試験場オリジナル品種を4品種(小麦2、地鶏1、日本なし1)育成し、目標を達成できた。  
③令和2年度に寄せられた要望事項の中で12の研究課題を設定し、目標を達成できた。

主な取組	○生産者から消費者まで幅広く評価される魅力あるオリジナル品種の開発 ・良食味で主要病害に強く、9月上中旬に収穫できる日本なし「南農ナシ6号」を育成 ・肉質が良好でうま味強い100日タイプの地鶏「長交鶏3号」を開発	 <p>「南農ナシ6号」の果実</p>  <p>地鶏「長交鶏3号」</p>
	○環境への負荷を軽減できる農業生産技術の開発 ・紫外線(UV-B)照射と油脂系気門封鎖型殺菌剤の体系処理による、夏秋どりいちごのうどんこ病の発病とハダニ類の増殖抑制効果の解明 ○産学連携によるAI等を活用した先端的な農業技術の開発 ・斜度45度の水田畦畔草刈作業が可能で軽労化が図れるリモコン式水田畦畔草刈り機の開発 ○将来的な地球温暖化による影響評価と適応技術の開発 ・りんごの日焼け果の発生軽減に被覆資材が有効であることを解明 ○高位安定生産のための品種改良・技術開発 ・エノキタケやブナシメジに発生する害菌の新たな検出技術を開発 ○低コスト・省力・軽労化のための技術開発 ・りんご高密度植栽における着色管理・収穫の省力化技術を開発 ○農業分野の知的財産権の保護・活用 ・改正種苗法の的確な周知による県民理解の促進と県産品種の利用制限方針の決定・周知	

## 2 今後の事業の方向性

	課 題 等	今後の方向性
今後、事業をどのようにしていきたいか	<p>農業現場の急激な構造変化に対応するため、農業をスマート化する技術開発と実用化が必要。</p> <p>地球温暖化(気候変動)の農業生産に対する影響評価及び温暖化に適応した品種・技術開発だけでなく、二酸化炭素削減など緩和策としての技術開発が必要。</p> <p>多様化した消費者ニーズに対応した品種や革新的な栽培技術の開発が必要。</p>	<p>長野県農業関係試験研究推進計画に沿って事業を実施し、「日本をリードする研究力を活かした信州農業を革新する新品種・新技術の開発」及び「生産現場の課題を解決するための技術開発」、「地球温暖化対策」を柱に据え、研究を推進する。</p>

事業番号 09 03 06 細事業一覧（令和2年度実施事業分） 当初要求 当初予算案 補正予算案 点検

事業名	農業関係試験研究推進事業	部局	農政部	課・室	農業技術課
-----	--------------	----	-----	-----	-------

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算
1	運営費、農業関係試験場整備事業費、研究推進費、素材開発研究費	302,245 千円	180,893 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和2年度 実施内容(実績)
1	試験場の運営・施設管理	直接	試験場の運営、施設管理を行った。
2	農業関係試験場の施設及び設備の更新	直接	農業関係試験場の施設及び設備の更新・導入により、技術開発の効率的・積極的な推進を図った。
3	試験研究の効率的な運営と知的財産管理	直接	試験研究の効率的な運営を行い、知的財産の管理や積極的な活用を促した。
4	農業生産現場のニーズに応えるための基礎知見の集積	直接	農業生産現場のニーズに応えるため、基礎となる「研究シーズ」を創出し、応用技術につながる基礎知見の集積を図った。

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算
2	県単プロジェクト研究費	36,860 千円	33,189 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和2年度 実施内容(実績)
1	生産現場の緊急要望へ対応するための短期間（3～5年）で集中的な技術開発	直接	生産現場の緊急要望へ対応するため、各部門から選出したチームにより短期間（3～5年）で集中的な技術開発を行った。

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算
3	高度化等研究開発費	70,816 千円	72,377 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和2年度 実施内容(実績)
1	農水省の競争的資金等を活用した国研や大学などの協力研究による技術開発	直接	農水省の競争的資金等を活用し、主要農作物が直面する重要課題に対し国研や大学などの協力研究により技術開発を行った。

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算
4	新資材試験等協力研究費	46,818 千円	46,153 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和2年度 実施内容(実績)
1	国や民間企業、団体等からの委託された研究を活用した技術開発	直接	国や民間企業、団体等からの委託された研究を活用し、長野県農業の発展に貢献する技術開発を推進した。

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算
5	畜産試験場養豚研究基盤強化事業費	0 千円	563,504 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和2年度 実施内容(実績)
1	養豚技術の開発を支援するため畜産試験場の施設等を整備	直接	令和2年度へ明許繰越（防疫、動物福祉を考慮した豚舎、飼育資材の消毒施設の新設等、及び既存畜舎の一部を改修する。また、排せつ物処理のための浄化槽改修工事を行う。）